

## 第5章 調査地域の砂防事業

### 5.1 梓川（含む女鳥羽川・薄川）の砂防事業

#### ○梓川流域の砂防事業のはじまり

長野県砂防課（1972）『長野県の砂防』、牛伏川砂防工事沿革史編纂会（1933）『牛伏川砂防工事沿革史』によれば、梓川の砂防事業は、支川奈良井川の右支田川のさらに右支牛伏川及び塩沢川において、明治18年（1885）に初めて施工されました。明治初期の頃この2支川はひどく荒廃して土砂を流出しており、下流では降雨のたびに水害に見舞われていました。当時新潟県下においては、信濃川改修計画が策定され、この2支川は計画に支障となる土砂の供給源とされ、国（内務

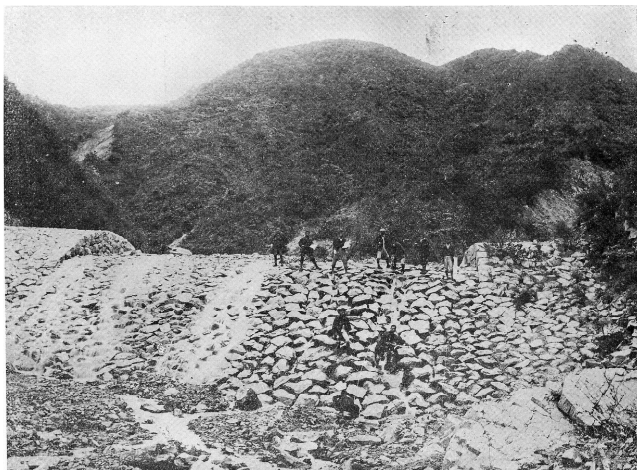


写真 5.1 牛伏川第二号堰堤  
（牛伏川砂防工事沿革史編纂会、1933）  
明治19年（1886）内務省施工 登録有形文化財

#### ○女鳥羽川、薄川流域の砂防事業のはじまり

信濃川上流直轄砂防百年史編集委員会（1979）『松本砂防のあゆみ』によれば、女鳥羽川上流山地の荒廃は甚だしく、大正7年（1918）に直轄砂防事業が始められ、昭和10年（1935）まで続けられました。溪流では石堰堤、護岸工など、崩壊地では山腹石積、谷止石積、堰堤護岸、積苗工などが行われました（写真5.3）。長野県砂防課（1972）『長野県の砂防』によれば、昭和24年（1949）のキティ台風によって松本市が大きな被害を受けたため、長野県によって砂防事業が再開されています。

省土木局）の直轄砂防事業として行われました。工事の種類は、石積堰堤、谷止工、土堰堤、水路石張工、護岸工、積苗工、山腹石積工などでした。当時建設された石積堰堤の一部は、登録有形文化財となっています（写真5.1）。

牛伏川及び塩沢川の直轄砂防事業は、明治23年（1890）まで実施された後、明治30年（1897）の砂防法の発布をもって、長野県に引き継がれ現在も砂防事業が行われています。長野県によって大正5年（1916）に建設された牛伏川階段工（牛伏川本流水路）は、重要文化財となっています（写真5.2）。



写真 5.2 牛伏川階段工  
（牛伏川砂防工事沿革史編纂会、1933）  
大正5年（1916）長野県施工 重要文化財

また、薄川においても崩壊が数多く分布しており、大正8年度（1919）に直轄砂防事業に着手し、昭和6年度（1931）に竣工しました。工事は崩壊個所に山腹石積、谷止石積などの土砂流出を防ぐ工事を主に行われ、石堰堤、護岸石積も施工されました。

山浦（2021）によれば、昭和13年（1938）に長野県によって砂防事業が再開されました。国内最初期のアーチ砂防堰堤として宮海道堰堤が薄川の本流中流部に建設されました（写真5.4，昭和14年11月完成）。この堰堤は堆砂量が大きいことから、薄川の土砂流出防止に大きく貢献し、令和6年（2024）12月に登録有形文化財となりました。



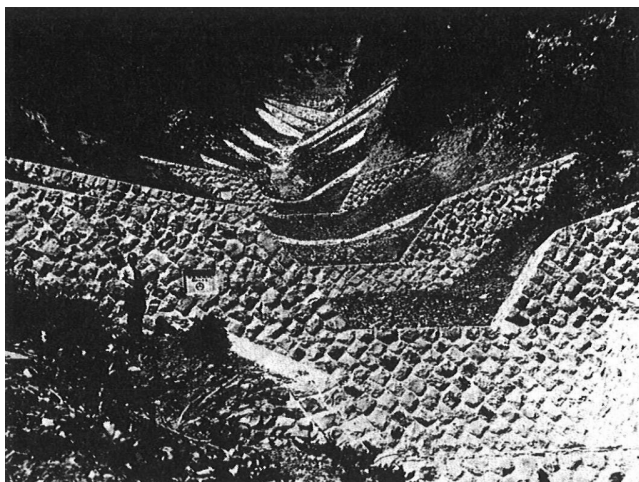


写真 5.3 女鳥羽川支川品庄沢砂防竣工写真  
(昭和 10 年 (1935) 撮影),  
『松本砂防のあゆみ』より

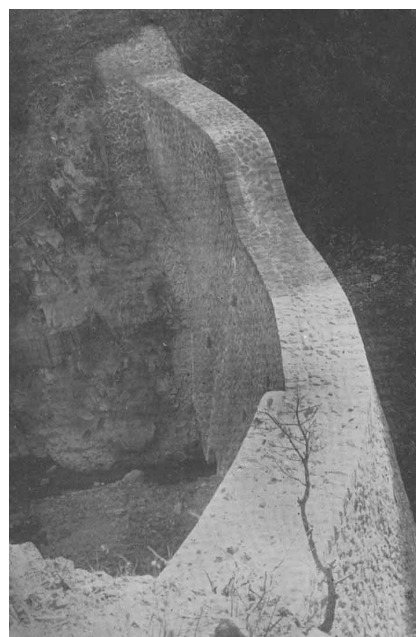


写真 5.4 竣工時の宮海道堰堤  
(登録有形文化財) (長野県, 1940)

#### ○松本市西部（梓川上流）の砂防事業のはじまり

『松本砂防のあゆみ』によれば、焼岳の大正 4 年 (1915) 噴火により上流が荒廃し、下流峡谷も崩壊が著しい中、水力発電、観光面の脚光を浴びるようになりました。このため、昭和 7 年 (1932) に内務省 新潟土木出張所 信濃川水系砂防事務所が松本市筑摩に設置され、直轄砂防事業が開始されました。当初は、梓川の沢渡から大正池にかけての山腹工事並びに溪流工事を行いました。

昭和 11 年 (1936) には梓川本川に我が国最初期最大級のアーチ型砂防堰堤である釜ヶ淵堰堤が、赤木正雄博士により計画され、着工されました(写真 5.5)。釜ヶ淵堰堤は昭和 19 年 (1944) に竣工し、現在は登録有形文化財となっています。

昭和 20 年 (1945) 災害を契機として、昭和 21 年 (1946) に島々谷川、昭和 26 年 (1951) に奈川、昭和 27 年 (1952) に大野川へ事業を拡大しました。また、昭和 26 年には焼岳に事業を拡大し、中堀沢で砂防堰堤の建設に着手しました。

そして、昭和 50 年 (1975) の上高地での土砂災害を受け、昭和 51 年 (1976) の八右衛門沢の砂防堰堤建設をはじめとして、上高地地域での砂防事業を推進しています。

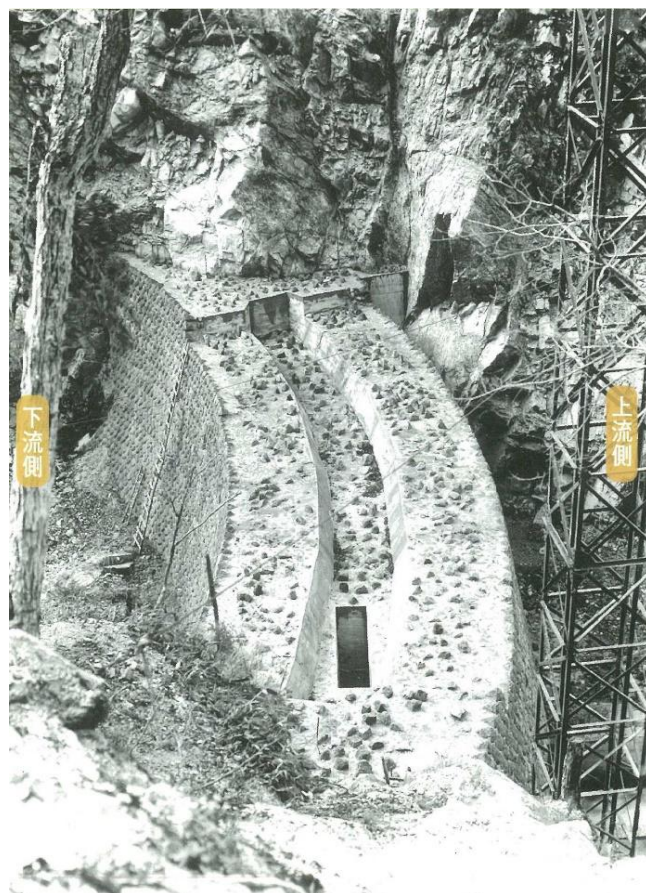


写真 5.5 建設中の釜ヶ淵堰堤

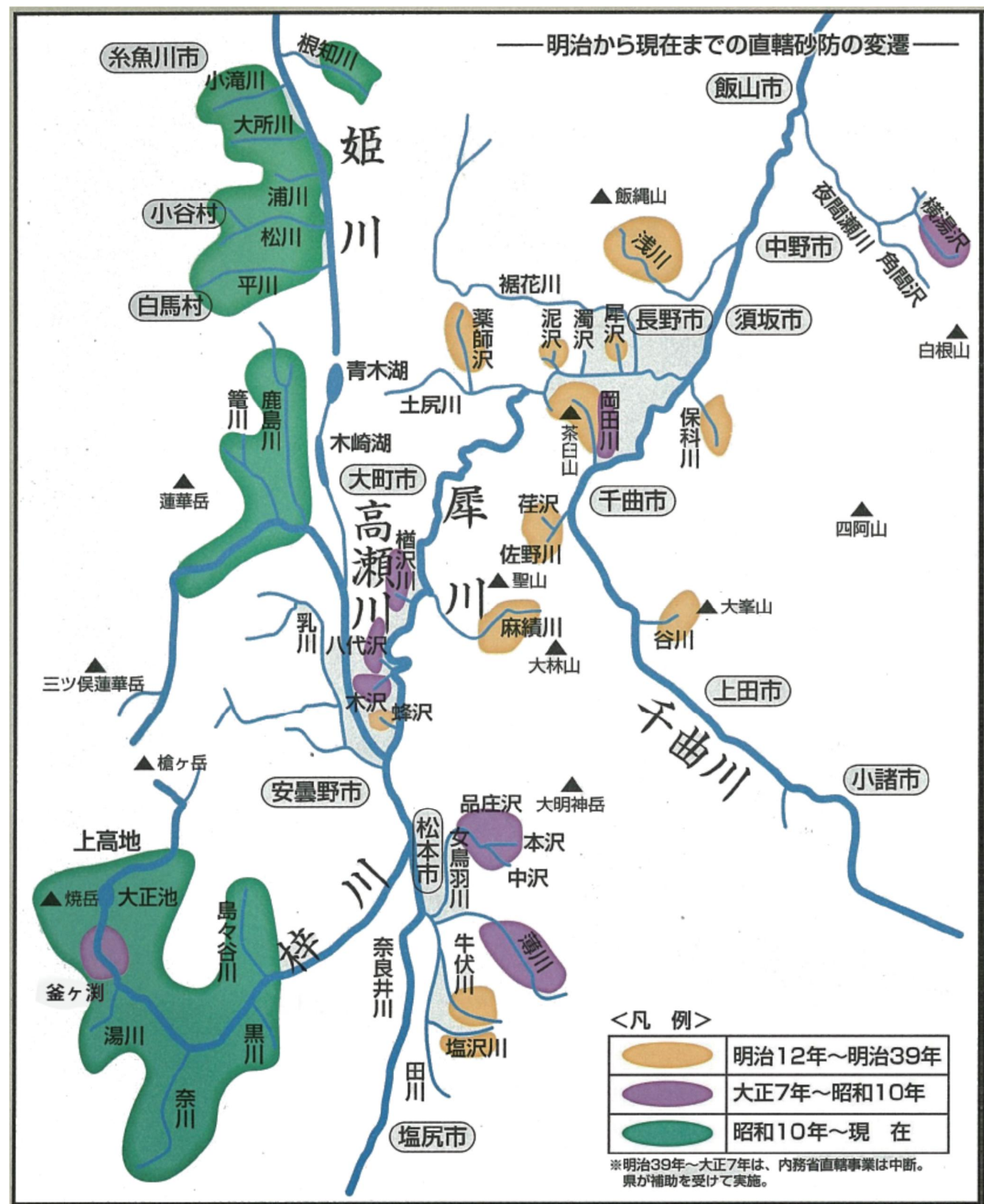


図 5.1 明治から現在までの直轄砂防の変遷  
(松本砂防事務所, 2016 より)